

山口県立大学 アクティブラーニングハンドブック 02

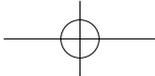
Yamaguchi Prefectural University
Active Learning Handbook 02

異文化の落とし穴

Cross-Cultural Pitfalls

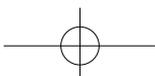
山口県立大学国際文化学部国際文化学科 編

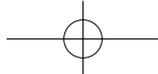
安溪遊地・渡辺克義・Amy WILSON
馬鳳如・張玉玲・金恵媛・岩野雅子 著



はじめに

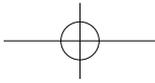
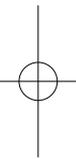
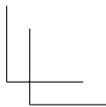
このシリーズは、「ことばと文化」をめぐって、アクティブラーニングと呼ばれる、学生主体の生き生きした授業に役立つ素材を提供し、山口県立大学国際文化学部 of 学生の学習を助けるためのハンドブックとして作成したものです。

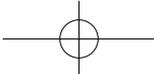




CONTENTS / 目次

- Chapter 1** すれちがう異文化と
結び合う異文化 (安溪遊地) 5
- Chapter 2** 世界の歴史と未来を学ぶための
多言語特訓ゼミ (渡辺克義) 9
- Chapter 3** Always Disagree: Cultural Pitfalls in English Debate
Learning for Japanese Students (Amy WILSON) 13
- Chapter 4** 異文化の落とし穴
——中国語・英語・日本語の対比から (馬鳳如) 21
- Chapter 5** 異文化理解としての外国語学習
——文化人類学の視点から (張玉玲) 35
- Chapter 6** 異文化理解と外国語プレゼンテーション
——「初めて」を「楽習」する (金恵媛) 47
- Chapter 7** 異文化理解から交流実践へ
——異文化交流論の進め方と
到達目標 (岩野雅子) 59
- Chapter 8** From "Kichiku Bei Ei" to Friendship in Post-War
Yamaguchi (Amy WILSON) 81





Chapter 1

すれちがう異文化と結び合う異文化

あんけい ゆうじ
安溪 遊地

1994年に起こったルワンダでの大虐殺のことを知ったら、「部族対立って怖い」、あるいは「私たちの国では絶対に起こらない」とか「アフリカは野蛮」とか思ったりしていないでしょうか。そもそも文化や民族の違いがなければ、そんな対立も起こらないと思っはいませんか。植民地支配のためにフツとツチとトゥワという「民族」をこしらえ、そこに差別待遇を持ち込むことで憎み合わせるという歴史と、「この虐殺をニュースをみた人たちは『怖いね』といいながら食事をつづけるんだ」という、現在についての映画『ホテルルワンダ』の中の言葉を思い出します。

国際文化学科の旧カリキュラムのアフリカ社会文化論では、そうではないのだということを実感するアクティブラーニングとして、以下のような差別授業をしてきました。題して「メガネン殿下の演説」。普通の差別体験型の授業は、先生が胃潰瘍になるほど重たいものだと思いますが、私の場合は、元首である私が暗殺されて終わりになりますので、案外明るく進行します。

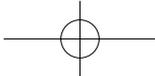
メガネン殿下の演説

おほん、南ハボン立憲君主国によろこそ。私は国家元首のメガネン殿下である。この教室のひとりひとりが臣民である。40人の小さい国であるが、地球は百人の村らしいので、諸君には超大国であるという誇りをもっていただきたい。独立したときに、人権尊重と平和を柱とする新しい憲法をさだめたので簡単に説明しておく。



私は、子どものころから眼鏡をかけているが、そのためにサルでもないのにメガネザルとか、メガネ！ と呼び捨てされたりしてきたのである。松葉杖をついている人にマツバツエ！とか言うか？ このような人権を無視した社会を是正するために、憲法第一条は「眼鏡人」とした。きみたちの中で、眼鏡をかけているのは光輝ある「眼鏡人」である。これまで受けてきた人権侵害へのアフーマティブアクション、すなわち積極的差別解消政策として、眼鏡人は、税金は半額で兵役は免除、優先的に公務員にもなれることを定めた。で、君たち「眼鏡人」の中で、小学校から眼鏡というものは居るか？ おお、ひとりおるな。おめでとう、君は私と同じ「スーパー眼鏡人」である。これは、憲法第二条に定める特権的な階級だ。国会議員には、「スーパー眼鏡人」しか入れない。もちろん首相にもなれる道があるぞ。第三条は、この2種類に該当しない残余の臣民の位置づけだが、なんという名前にしようか。さっき昼飯を食いながら考えた憲法草案なんで、まだ二条までしかできておらんのだ。えーと、めんどくさいや。そうだ めんどくサイヤ人 (© きっこのブログ)！ 第三条。多数派のめんどくサイヤ人は、税金が普通にかかり、原則公務員には入れない。大学の教員になれても教授昇進はできない。投票権がなく、服の胸には、おおきく「め」の字のぬいとりをつけることを義務づける。店をやっておるものは、その店の入り口に「め」とか「生目あります」とかを表示することを義務づける。めんどくさいやの「め」じゃ。それから、めんどくサイヤ人のくせに、恐れ多くも眼鏡をかけて眼鏡人に偽装していることがばれたら、公開銃殺とする……。

そのような憲法は学問的な根拠がないなどと思っておるので



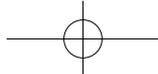
Chapter 1 すれちがう異文化、結び合う異文化

はあるまいな。そんなことはない。ちゃんと、立法と行政と司法の長である私が責任をもって、学者の諮問委員会を作って、我が国の歴史の研究をさせておる。これが、博士たちが研究している、わが眼鏡人のいと高きメガネ大神のお姿である (<https://ja.wikipedia.org/wiki/遮光器土偶>)。縄文土偶のなかでも最高のもので。この列島に古くから住んだのが、縄文メガネ人であって、あとから来た弥生めんどくサイヤ人たちが多数をしめたことから、先住民族の権利が失われたことを、きっちり歴史教科書に書き込ませよう。だから、第四条は、メガネ大神礼拝の義務、第五条は、メガネ大神の国旗掲揚と国歌斉唱の義務について定めよう。

いまのところ、青森県亀ヶ岡移籍出土の遮光器土偶といわれるもののご尊像を使用しておるが、この遺跡が、北の共和国の中にあるのは腹立たしいことじゃ。最近北から南への不法移民が絶えず、わが神国にとっての頭痛の種となっておるのだが、新憲法の発布が終わったら、北との国境にアルプス越えの高い屏を建設して、その建設費用は、全額北に払わせることにしよう（盛大な拍手）。

話し合ってみよう

というようなことを続けていくと、どうなるでしょう？ あつというまに、めんどくサイヤ人による同時多発テロと内戦・虐殺なんてことがおこりかねません。文化の違いがあるから私たちは手を結びあえるのです。ルワンダ内戦やそれに続いて600万人もの死者を出しているコンゴ内戦などを遠い国での野蛮な人々が引き起こしたこと、と思うのではなくて、紛争鉱物を大量に使って内戦の火に油を注いでいるとも知らされずにスマホなどの「便利



な暮らし」をしている私たちの生き方そのものを、胸に手をあてて反省しなければなりません。また、沖縄戦での集団自決という名前の虐殺や、台湾の2・28事件(1947年)、濟州島の4・3事件(1948年)、などを心にきざんでください。そもそも現生人類はすべて、アフリカ大陸を故郷とする兄弟姉妹であり、すべてのいのちは、この奇跡の星を構成するかけがえのない家族であることをよく思い起こしてください。

それでは、肌の色も言葉も国も違うのに、家族として受け入れてくださった、コンゴ民主共和国での体験談などをお話ししましょう。プリントを見てください…… (後略)。

学習を深めるための質問

- 1) 南ハポン立憲君主国で絶対に成立しない産業は？
- 2) 逆に高値で闇取引されるものは？